
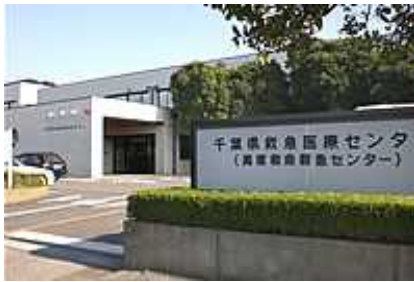


## がんセンター

開設年月日	昭和 47 年 11 月 1 日
所在地	千葉市中央区仁戸名町 666-2
病床数	341 床
職員数	522 人（うち医師 90 人、看護師 308 人） <span style="float: right;">※27 年度末時点</span>
診療科目	内科，緩和ケア内科，腫瘍・血液内科，呼吸器外科，呼吸器内科，消化器内科，消化器外科，内視鏡内科，乳腺外科，整形外科，脳神経外科，皮膚科，泌尿器科，婦人科，頭頸部外科，耳鼻いんこう科，放射線診断科，放射線治療科，歯科，麻酔科，腫瘍精神科，形成外科，病理診断科
病院概要	 <p>がんセンターは、がん対策の中心的役割を果たすために昭和 47 年に開設され、がん医療情報の交換、県内のがん患者の実態把握、がん医療技術者の研修などにも積極的に取り組んでいる。</p> <p>診療部門を臓器別診療科目に分け、また発がんの仕組みや悪性腫瘍に関する研究を行う研究所を設け、臨床部門との緊密な連携を保ち高度な診断・治療が行えるような体制を取っている。</p> <p>新薬開発やドラッグラグ解消、治療率のさらなる向上を目指す「臨床研究総合センター」、地域と連携し在宅がん患者を支えるための「心と体総合支援センター」、ロボット手術など最先端医療を提供するための「前立腺センター」を設置し、新しいがん医療を推進している。</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高齢化に伴うがん医療の需要増加への対応や高度化する治療技術への対応など、病院機能の強化が課題。</li> <li>○ 施設の老朽化、狭隘化が進んでおり、施設面での対応が必要。 ⇒現在、平成 31 年度の新棟建設に向けて、実施設計を実施中。</li> <li>○ がんセンターは、現在、本県のがん医療の連携の中心的機関として医療従事者の研修、がん登録データの分析、相談支援、情報提供などの機能を担っているが、引き続き県全体のがん医療の連携協力のコアとなって、県全体のがん医療の水準の向上を進めることが必要。</li> </ul>


	<p>○ 平成 26 年度に明らかになった腹腔鏡下手術に係る死亡事例に引き続き、乳がん患者の病理検体取り違い事故、ガーゼの遺残事故などが発生し、医療安全に係る県民の信頼を損ねる事態となった。「がんセンター改革本部」で取りまとめた改革内容の実行や特定機能病院における医療安全対策等を先行して導入するなどの対応をとったところであり、医療安全対策を継続的に進めて信頼される病院づくりを行うことが必要。</p>
--	---

## 救急医療センター

開設年月日	昭和 55 年 4 月 23 日
所在地	千葉市美浜区磯辺 3-32-1
病床数	100 床
職員数	289 人（うち医師 37 人、看護師 178 人） <span style="float: right;">※27 年度末時点</span>
診療科目	内科，循環器内科，外科，整形外科，形成外科，脳神経外科，麻酔科，心臓血管外科，精神科，放射線科，リハビリテーション科
病院概要	 <p>千葉県救急医療センターは、昭和 55 年に開設された千葉県全域を対象とする第 3 次救急医療施設であり、全国にも数少ない独立型の救命救急センターである。</p> <p>循環器科、脳神経外科、神経内科、心臓血管外科、消化器外科、整形外科、形成外科、麻酔科、集中治療科等各分野の専門医が救急医療に特化した形で、365 日、24 時間体制で勤務し、心筋梗塞、脳卒中、大動脈疾患、頭部外傷、多発外傷、急性腹症などの重症救急患者の治療に当たっている。</p> <p>また、県内唯一の高度救命救急センターとして広範囲熱傷、指肢切断、急性中毒などの特殊救急疾病患者の救命救急医療も行っている。</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 高度救命救急センターとして他の救急医療機関での対応が困難な広範囲熱傷や指肢切断などの症例への対応や、他の救急医療機関で受入れができない場合の受け皿として機能する必要があるが、施設の老朽化、狭隘化が進んでおり、施設面での対応が必要。</li> <li>○ 身体救急と精神救急に複合的に対応できる医療体制の構築が課題。 ⇒上記 2 つの課題を解決するため、現在、救急医療センターと精神科医療センターの一体的整備に向けて整備基本計画の策定を行っている。</li> <li>○ 高度救命救急機能を活用した、大規模災害時やテロ等の人的災害時の際の、県の中心的な災害医療センターとしての機能の強化が課題。</li> </ul>




## 精神科医療センター

開設年月日	昭和 60 年 4 月 1 日
所在地	千葉市美浜区豊砂 5
病床数	50 床
職員数	91 人（うち医師 9 人、看護師 58 人） <span style="float: right;">※27 年度末時点</span>
診療科目	精神科
病院概要	 <p>精神科医療センターは、昭和 60 年 6 月、人口の急増する千葉県で発生する精神救急ケースに 24 時間 365 日、切れ目なく対応することを主たる任務として設立された。また、入院した急性期患者は退院まで治療し、退院後の在宅ケアにもフォローアップすることを原則としている。</p> <p>この 30 年のうちに、当センターをモデルとした急性期型の精神科病棟が全国に展開され、在院日数の短縮とともに、救急・急性期医療と在宅医療を両立するコンセプトも定着した。</p> <p>また、国が推進する D P A T（災害派遣精神医療チーム）事業の活動に積極的に参加し、広域災害に際して迅速に対応する先遣隊として訓練を行っている。</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 24 時間対応の急性期精神疾患患者に対応できる精神科救急医療センターとして機能する必要があるが、施設の老朽化、狭隘化が進んでおり、施設面での対応が必要。</li> <li>○ 身体救急と精神救急に複合的に対応できる医療体制の構築が課題。 ⇒上記 2 つの課題を解決するため、現在、救急医療センターと精神科医療センターの一体的整備に向けて整備基本計画の策定を行っている。</li> <li>○ 本県の急性期精神患者の受入調整のための精神科救急情報センターの機能を担っているが、引き続き、本県の精神科医療の連携の中心的機能を担っていく必要がある。</li> <li>○ 急性期精神病患者の早期治療、早期退院、地域での医療支援のモデルを確立するための、精神科リハビリテーション、アウトリーチ活動の充実などが課題。</li> </ul>




## こども病院

開設年月日	昭和 63 年 10 月 1 日
所在地	千葉市緑区辺田町 579-1
病床数	224(204)床 ( )は運用病床数
職員数	432人(うち医師 57人、看護師 305人) ※27年度末時点
診療科目	小児科, アレルギー科, 循環器内科, 神経内科, 精神科, 小児外科, 整形外科, 脳神経外科, 眼科, 耳鼻いんこう科, 形成外科, 歯科, ひ尿器科, 心臓血管外科, 皮膚科, 産科, 麻酔科, リハビリテーション科, 放射線治療科, 放射線診断科, 救急科, 新生児内科, 病理診断科
病院概要	 <p>こども病院は、全県的な小児医療の中核病院として昭和63年に開院し、一般医療機関では対応困難な先天性疾患をはじめとした特殊又は専門的な医療を必要とする小児の疾患の診断・治療、それに付随する相談及び指導や小児医学向上のための研究・調査を行っている。</p> <p>また、全県的な小児医療ネットワークの中心的役割を担っており、小児医療を担う人材を育成するための研修医等の受け入れを行うとともに、全県的な小児3次救急医療の拠点病院の役割を担っている。さらに、地域医療支援病院として、地域の医療機関と連携した小児医療水準の向上にも努めている。</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 先天性疾患をはじめとした難易度の高い各種の新生児疾患や重度小児疾患等の治療に関して、県内の他病院では対応できない医療を提供していることから、引き続き、高度の小児医療を提供できるよう、専門医師を確保し、病院機能を強化していくことが必要。</li> <li>○ 県内の小児科医療を効率的、機能的に提供していくため、他の医療機関との連携による小児医療ネットワークの深化が必要。</li> <li>○ 施設の老朽化、狭隘化が進み、病棟では個室不足による重症児の受入れ制限が生じるなど、将来的には施設面での対応が必要。</li> <li>○ 小児人口が減少する中、将来的な病院機能のあり方について今後検討していくことが必要。</li> </ul>






## 循環器病センター

開設年月日	昭和 30 年 2 月 1 日 鶴舞病院開設 平成 10 年 2 月 1 日 循環器病センターへ移行
所在地	市原市鶴舞 575
病床数	220 床
職員数	397 人（うち医師 43 人、看護師 275 人） <span style="float: right;">※27 年度末時点</span>
診療科目	内科，神経内科，呼吸器内科，循環器内科，小児科，外科，整形外科，脳神経外科，心臓血管外科，皮膚科，眼科，耳鼻いんこう科，リハビリテーション科，歯科，麻酔科，腎臓内科，放射線科
病院概要	 <p>循環器病センターは平成 10 年 2 月に開設され、循環器疾患に対する救急を含めた高度専門医療を担っている。代表的治療として、各種脳疾患に対するガンマナイフ治療（放射線治療）、難治性てんかんに対する外科的治療、大動脈弁狭窄症へのカテーテル治療（TAVI）などがあるが、同時にまた地域の中核病院として幅広い総合型の循環器病センターを目指し、心臓疾患と消化器、代謝、腎疾患など複数の合併症を伴う患者の治療にも取り組んでいる。さらに社会復帰を目指した超急性期からの脳疾患・心臓疾患リハビリテーションも施行している。</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 脳血管疾患、心血管疾患等の循環器疾患の診断・治療は近年その発達が著しい分野で、最新の先端医療に遅れることなくフォローアップしていくことが必要である。</li> <li>○ 循環器病センターは周辺人口の少ない市原市南部に立地しているため、市原市のみならず外房地域からの救急医療へも対応している。これら県内他地域からのアクセスの改善や効果的な循環器医療の提供手法についての検討が課題。</li> <li>○ 循環器病センターの担う地域医療機能については、地域の実態に合わせて、地域の必要とする医療を提供していくことが課題。</li> <li>○ 現在は、循環器の高度医療と地域医療の二つの機能を担っているが、将来的には県立病院が本来担うこととしている役割や立地条件等を踏まえて、病院機能のあり方の検討が必要。</li> </ul>



## 佐原病院

開設年月日	昭和 30 年 10 月 1 日
所在地	香取市佐原イ 2285
病床数	241 (211) 床 <span style="float: right;">( ) は運用病床数</span>
職員数	261 人 (うち医師 20 人、看護師 189 人) <span style="float: right;">※27 年度末時点</span>
診療科目	内科, 神経内科, 呼吸器内科, 消化器内科, 循環器内科, 小児科, 外科, 整形外科, 脳神経外科, 小児外科, 心臓血管外科, 皮膚科, ひ尿器科, 産婦人科, 眼科, 耳鼻いんこう科, リハビリテーション科, 放射線科, 歯科, 麻酔科, 精神科, 人間ドック
病院概要	 <p>佐原病院は、昭和 30 年の開院以来、成田国際空港の北に位置する北総・香取地域の中核病院として重要な役割を果たしている。</p> <p>救急基幹センターとして救急医療を担うなど地域の中核病院としての急性期医療を担うとともに、訪問看護ステーション及び地域包括ケア病棟を開設し、これらを活用して急性期から在宅看護までを支援する「地域包括ケアシステム」の実現に向けて中心的な役割を目指している。</p> <p>さらに、災害拠点病院として、地元市や保健所、消防本部と連携した院内災害訓練の実施や大規模地震時医療活動訓練への参加を行う等、災害対応能力の向上に努めている。</p>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 県の保健医療計画において、地域完結型の一般医療については地域の自治体等が中心となって新たな医療提供体制を再構築することとされており、香取地域における中核的な地域医療機能を担っている佐原病院については、地域とともにそのあり方を検討していくことが必要。</li> <li>○ 医療・介護など他の関係機関と連携して、地域における循環型の「地域包括ケアシステム」を構築することにより、高齢化社会における他の地域のモデルケースとなるよう取り組むことが必要。</li> <li>○ 内科、外科等の一部の診療科で医師の減少が顕著となっており、地域で期待されている救急医療等を担うためには、医師の確保が重要。</li> </ul>

	<p>○ 本館の耐震性が不足しており改修が必要な状況であるが、診療を継続しながらの改修が難しく、また、今後の地域医療のあり方について検討が行われていることなどから、本格的な改修をどのように行うのが課題。</p>
--	---